R7 楡木小学校　学校通信
No.３０
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年１１月２８日
文責　余宮

気温の低下とともにインフルエンザなどの流行が大変心配です。ご家庭でもぜひ予防対策をお願いいたします。

## フィルターバブルとエコチェンバー①

先日、5 年生の子どもたちが「九州地方放送教育研究　熊本大会」で授業を公開しました。子どもたちは、地域のごみ問題に目を向け、その分析を通して様々な課題解決に取り組んでいるところです。その中で、大人にも環境問題や SDGs のことを伝えたい、という思いが高まり、環境フェスの開催を目指した探究の只中にあります。当日は、環境フェスで発表するプレゼンなどをブラッシュアップする場面が授業として公開されました。

なんと、素晴らしい探究活動でしょう。

たくさんの先生方が見ている前にもかかわらず、堂々とした態度。物おじしない強心臓も驚いたのですが、その内容には、さらに大変驚かされました。

ごみ問題から端を発したこの探究は、水、節電などのジャンルの豊富さに加え、視野が地域や家庭などのローカルな面から、世界の環境問題解決に向けたグローバルな面まで広がりまくっていました。

素敵な授業が終わり、バスで楡木小へ帰る途中、子どもたちにインタビューしてみました。なぜ、こんなに広く深く遠くまでの探究活動になったのか。

「調べてみると、知らなかったことや違うと思っていたことなどが、たくさん引っかかりました。調べないわけにはいかないし、考え直さないといけないことが分かったから、大変になっちゃったんです」

すごい…

いろいろすごいんですが、何より、自分が今思っていることと違う考えにも開かれている探究活動自体に、私は心を動かされます。通常、自分の考えを強化していく方向で調べたり証拠を見つけたりするのが、ヒューマンというものです（「学校通信 No. 16 それでも考え続けることをやめない」参照）。にもかかわらず、自分の考えに都合のよくないことまでしっかりと調べている。

改めて「フィルターバブル」と「エコチェン―」という２つの言葉を、思い出しました。

フィルターバブルは、自分の考え以外はフィルターしてしまう状況を指す言葉だそうです。私はこの言葉尻を捕らえて、フィルターバブルに対して思い違いをしていました。緩い管理状態と言われる現在の情報化社会において、フィルターバブルは多くの人が陥りやすい状況だろう、と。確かにそういう側面がないわけではありません。ネット世界では、AI の力によってタイピングの癖まで見抜いて情報を提供するプログラムがあるとか。欲する情報がいつもパソコン画面に出てくるなと、感じられる場面も少なくありません。

だから、フィルターバブルに陥ることは、意外とある、と思ってしまった。

しかし、よくよく考えてみると、そんなことはありません。ちょっと周りを見回してみるだけで、情報はいやというほどあります。その気になれば、学校で学習する教科の内容くらいは、ものの数分でネットから情報を取り出すことすらできるでしょう。よほど、閉じられた環境にいない限り、フィルターバブルに陥ることは実質的にはなさそうです。

では、何が問題か。どうやら「エコチェンバー」らしいのです。（ごめんなさい 続く）